

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成 16 年 10 月 28 日 (2004.10.28)

【公表番号】特表 2002-514280 (P2002-514280A)

【公表日】平成 14 年 5 月 14 日 (2002.5.14)

【出願番号】特願平 10-502889

【国際特許分類第 7 版】

F 0 1 N 3/02

B 0 1 J 19/00

F 0 1 N 7/08

【F I】

F 0 1 N 3/02 3 0 1 A

B 0 1 J 19/00 H

F 0 1 N 7/08 A

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 10 月 8 日 (2003.10.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成15年10月8日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第502889号

2. 補正をする者

名称 ミネソタ マイニング アンド マニュファクチャリング
カンパニー

3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751) 石 田 敬



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙の通り補正します。

7. 添付書類の目録

請求の範囲

1 通

方 式 査 査



請求の範囲

1. 内燃機関からの排ガスを浄化するための汚染防止装置であって、ハウジングと、
前記ハウジング内に配置される汚染防止要素と、
前記ハウジングと内燃機関の排気管とを接続するエンドコーンと、
内面および外面を有し、前記内面のかなりの部分が前記内燃機関からの排ガス流に暴露されるように前記エンドコーン内に配置されている遮熱コーンと、
を備え、前記遮熱コーンは少なくとも1種の無機繊維及び無機粒子を含み、その少なくとも一部は互いに熔融し、排ガス流に暴露されても侵食に耐えるよう十分熔融している無機材料を含む汚染防止装置。

2. 前記遮熱コーンがセラミック繊維を含む請求項1に記載の汚染防止装置。

3. 前記遮熱コーンの少なくとも内面が処理されて剛性表面を形成する請求項1に記載の汚染防止装置。

4. 汚染防止装置の金属製エンドコーン内に配置される自立型繊維エンドコーンの形成方法であって、

前記汚染防止装置の外側の金属製エンドコーン部分の内面の寸法を有する型を提供するステップと、

セラミック繊維マットのストリップをコロイドシリカ懸濁液で飽和させるステップと、

飽和したセラミック繊維のストリップを前記型の前記内面に載置するステップと、

前記飽和したセラミック繊維のストリップを前記型に押し付け、遮熱エンドコーンの所望の外径および内径を得るステップと、

前記セラミック繊維とコロイドシリカ懸濁液との複合体を硬化させて排ガス流に暴露されても侵食に耐えるよう互いに十分に熔融した繊維状の遮熱コーンを形成するステップと、

繊維状の前記遮熱エンドコーンを離型するステップと、を含む自立型繊維エンドコーンの形成方法。

5. 汚染防止装置と共に使用される自立型内部遮熱エンドコーンの形成方法で

あって、

繊維状の遮熱コーンの所望の最終寸法を有するゴム型を提供するステップと、

前記ゴム型を加熱するステップと、

ガラス繊維およびセラミック繊維と、無機および有機バインダとの繊維バインダ混合物を、予め加熱した前記ゴム型に注入するステップと、

前記型を冷却して前記繊維バインダ混合物を硬化させるステップと、

硬化した繊維状のコーンを離型するステップと、

前記硬化した繊維状のコーンを加熱して前記有機バインダを除去するステップと、

硬化した繊維状のコーンを焼いて前記繊維と無機バインダとを焼結させるステップと、を含む自立型内部遮熱エンドコーンの形成方法。